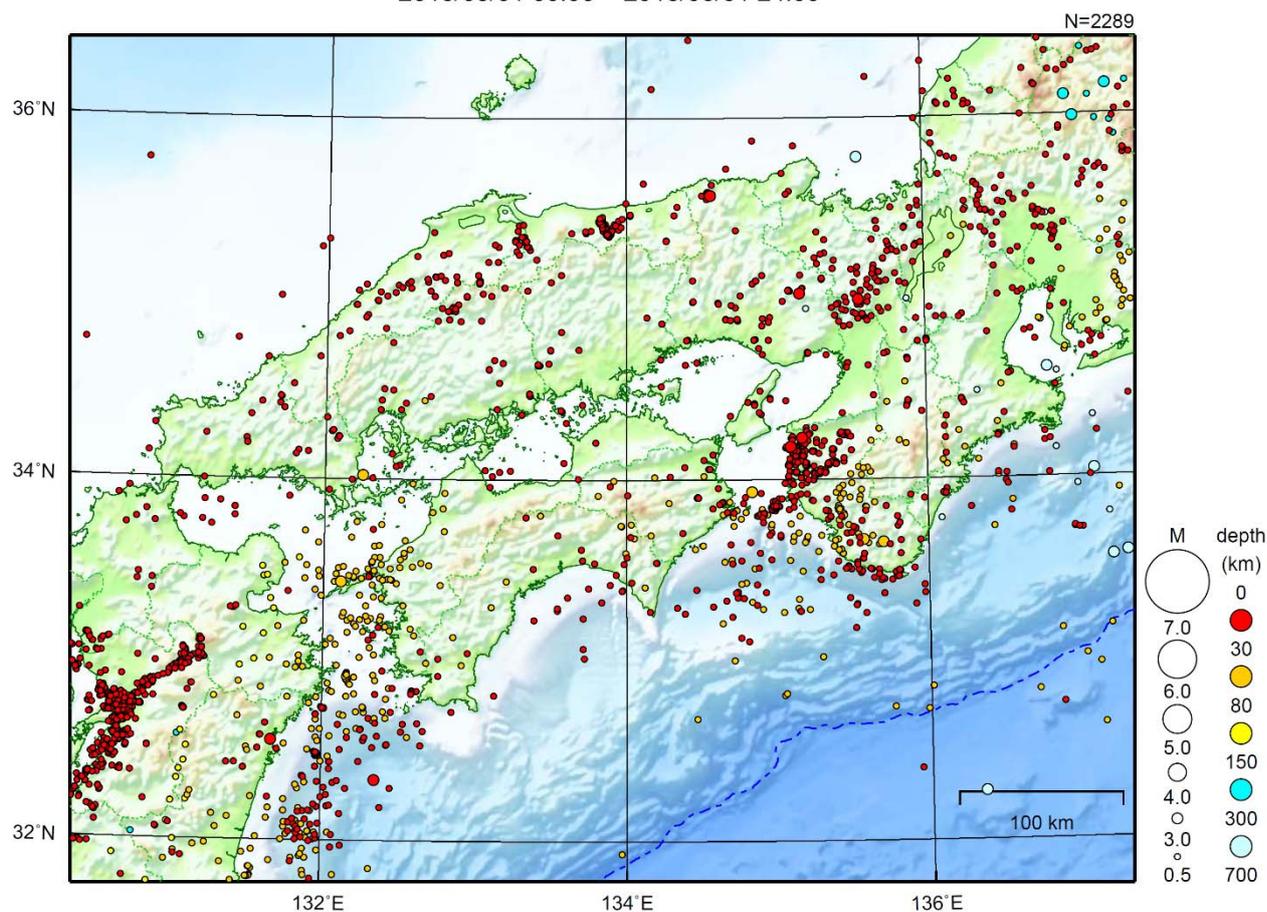


# 近畿・中国・四国地方

2018/03/01 00:00 ~ 2018/03/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

特に目立った地震活動はなかった。

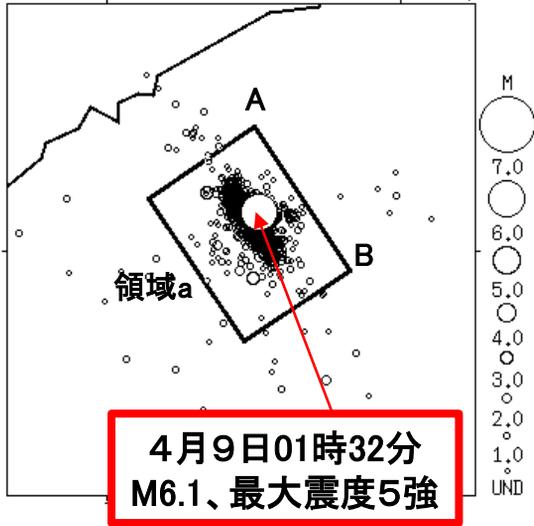
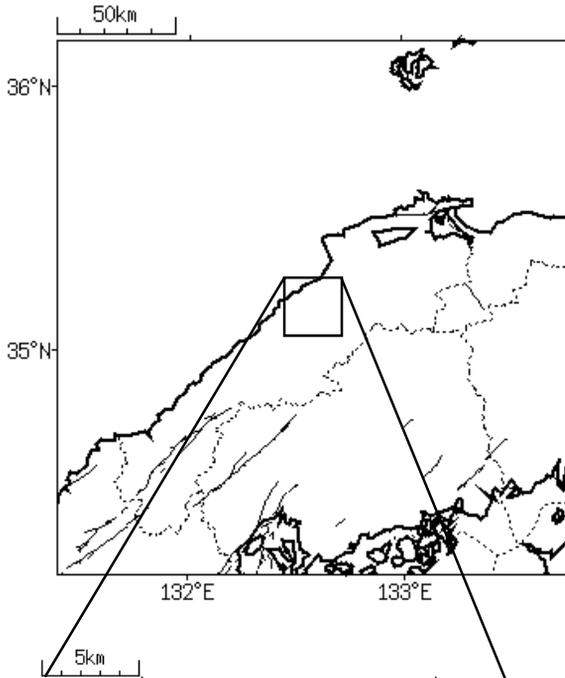
(上記期間外)

4月9日に島根県西部でM6.1の地震(最大震度5強)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

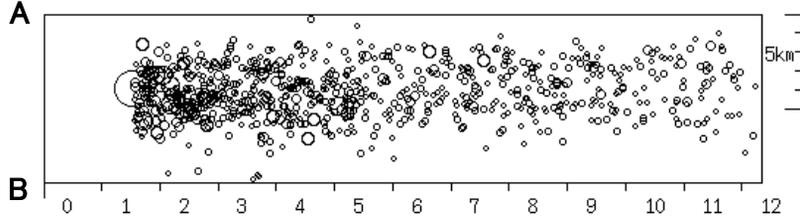
# 平成30年4月9日 島根県西部の地震 地震活動の状況（4月9日12時20分現在）

震央分布図  
(2018年4月9日00時00分～12時20分、Mすべて、深さ0～20km)

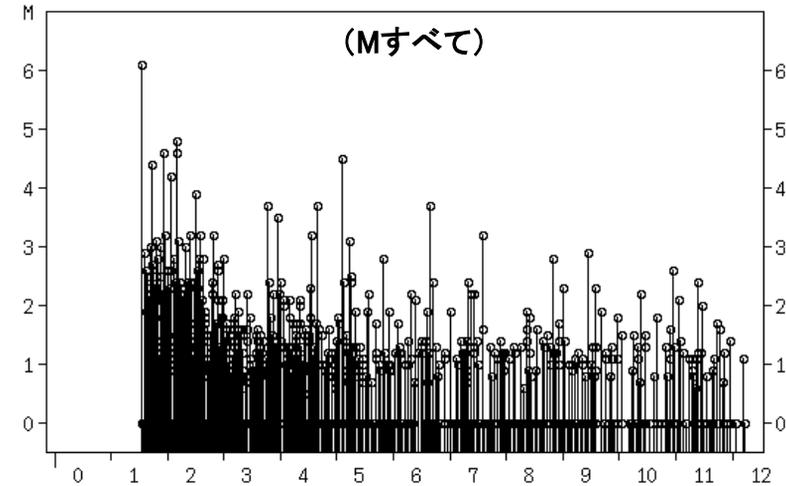


地図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

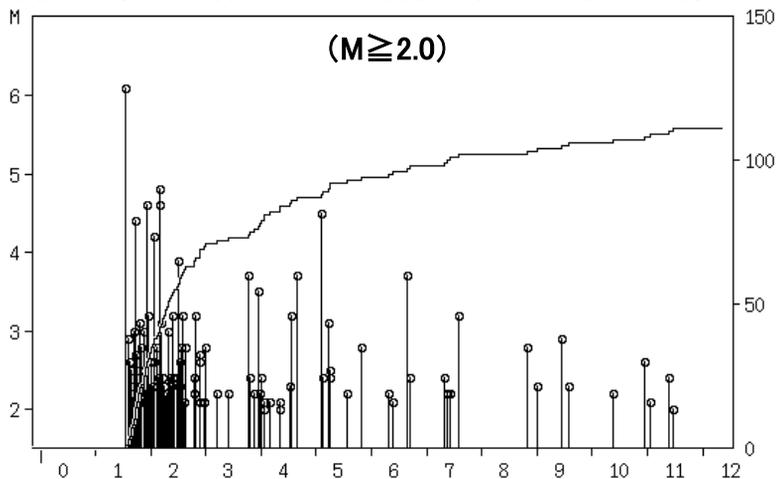
震央分布図の領域a内の時空間分布図(A-B投影)  
(Mすべて)



震央分布図の領域a内の地震活動経過図  
(Mすべて)



震央分布図の領域a内の地震活動経過図・回数積算図  
(M≥2.0)



横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

## <資料の利用上の留意点>

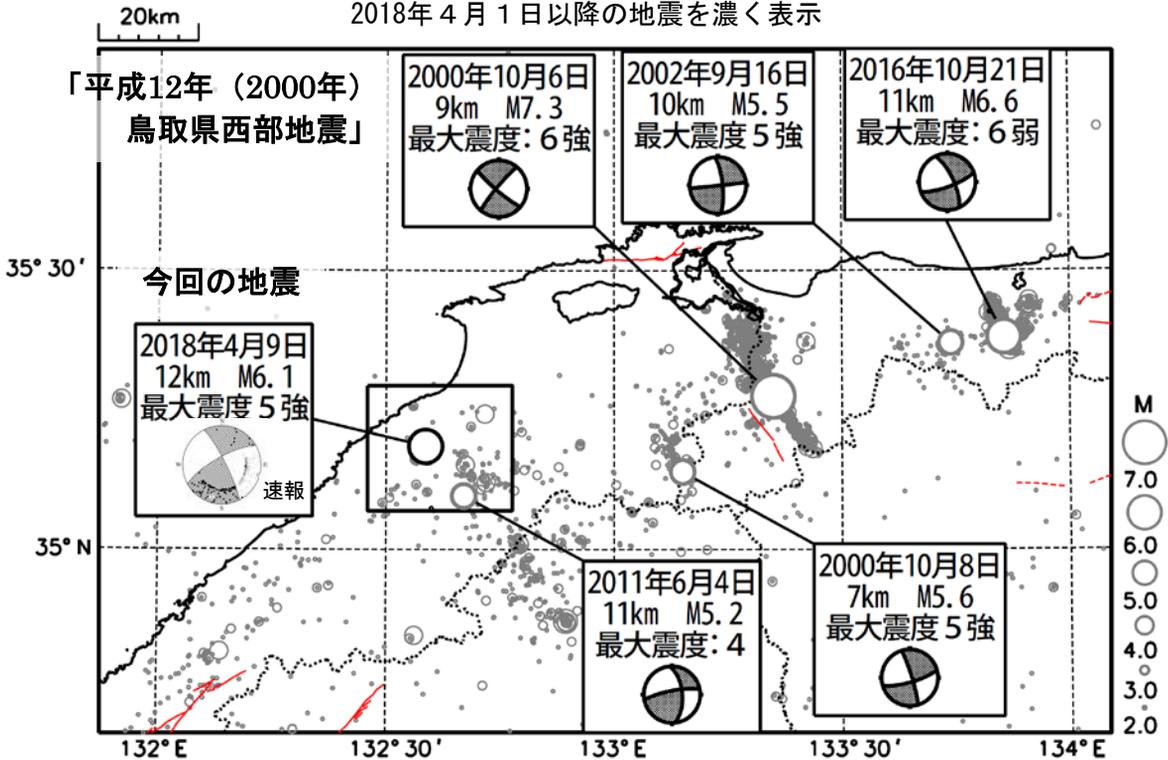
- ・表示している震源は、自動処理による結果です（01時32分のM6.1の地震を除く）。
- ・地震情報で発表した震源要素等と異なる場合があります。
- ・発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがあります。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

# 平成30年4月9日 島根県西部の地震 (発生場所の詳細)

## 震央分布図

(1997年10月1日～2018年4月9日11時00分、深さ0～30km、M2.0以上)

2018年4月1日以降の地震を濃く表示

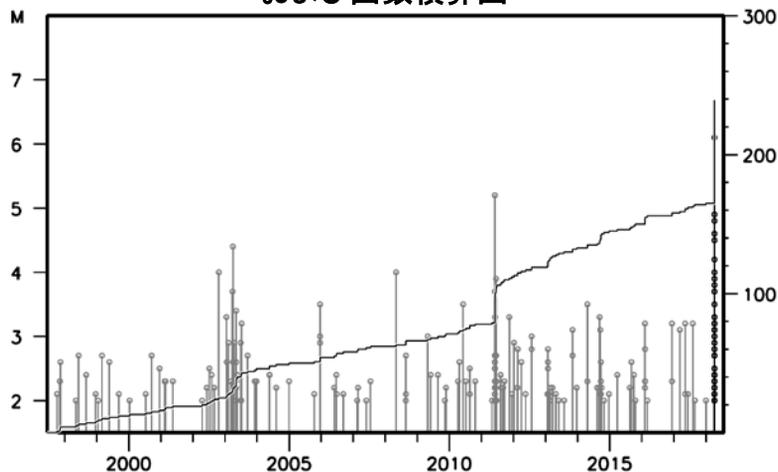


震央分布図中の赤線は、地震調査研究推進本部による活断層を示す

丸の大きさはマグニチュード(M)の大きさを表す。

震央分布図内のM5.5以上と四角形領域内のM5.0以上に吹き出しをつけた。

## 上図の四角形領域内の地震活動経過 および回数積算図

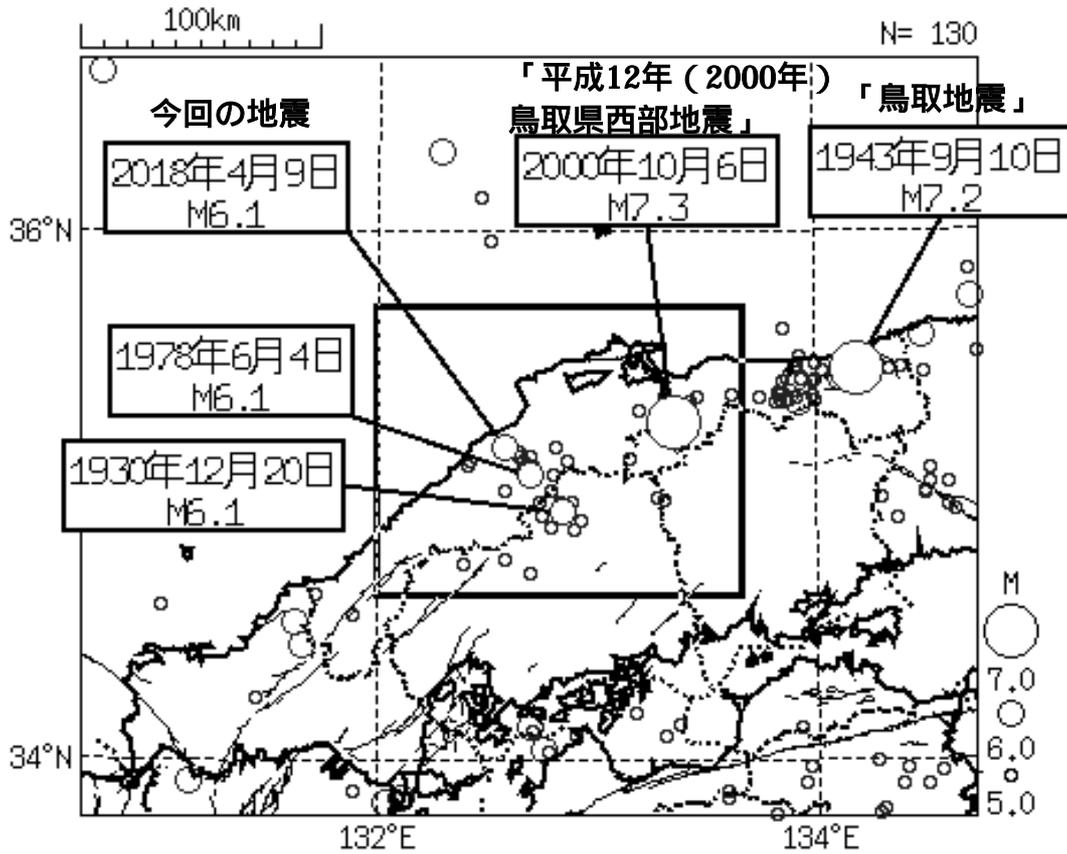


横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

# 平成30年4月9日 島根県西部の地震 (周辺の過去の地震活動)

## 震央分布図

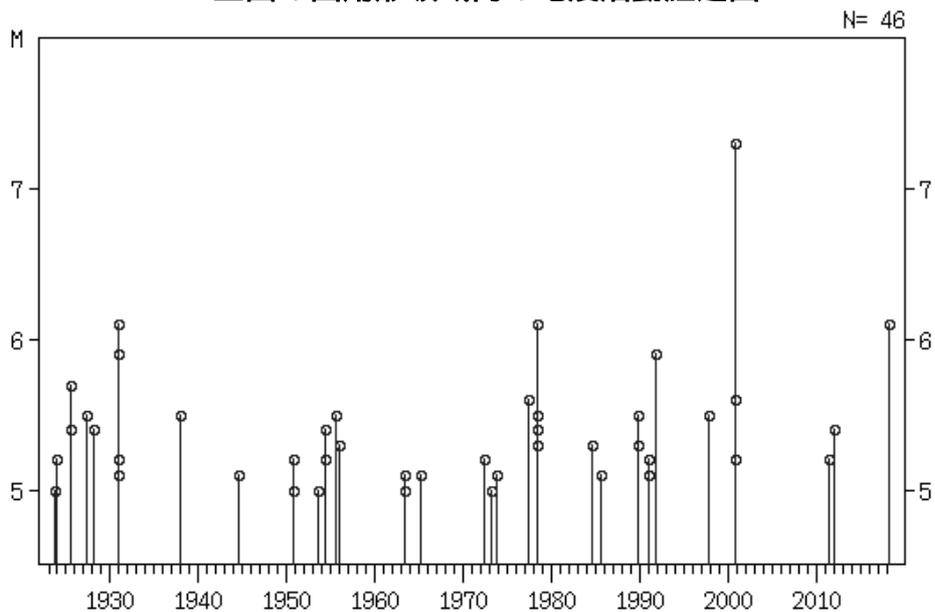
(1923年1月～2018年4月9日01時32分、深さ0～100km、M5.0以上)



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

震央分布図中の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

## 上図の四角形領域内の地震活動経過図

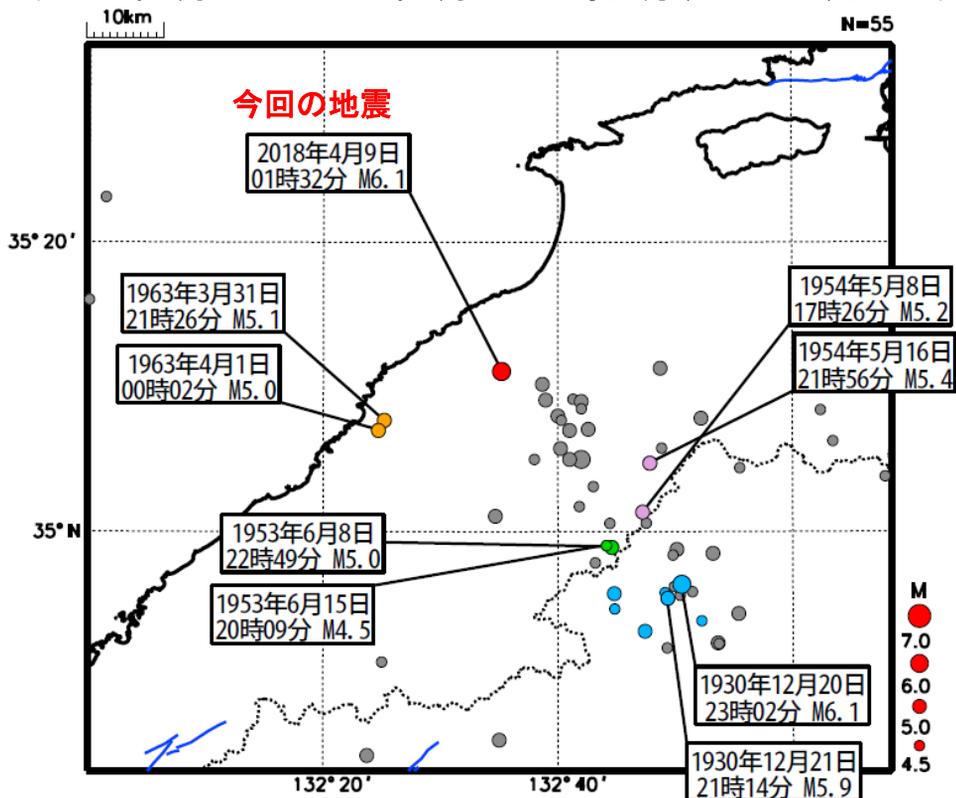


横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

# 島根県西部の地震付近の内陸地殻内の地震の続発事例※

## 震央分布図

(1923年1月1日～2018年4月9日01時32分、M $\geq$ 4.5、30km以浅)



※M5.0以上の地震発生後、近傍で30日以内にマグニチュード(M)の差が0.5以下の地震(後続の地震のMの方が大きい場合を含む)が発生した事例。今回の地震と続発事例の地震に吹き出しをつけた。また、最初のM5.0以上の地震から30日以内の地震を水色、黄緑色、薄紫色、橙色、今回の地震を赤色、それ以外の地震を灰色で表示した。

青線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

## 上図の地震活動経過図

